今こそ、同じ東北地域だからこそ支援活動を

Mollyボランティアプロジェクト

モーリー

本学ではこの度の東日本大震災に伴い、学生、教職員が一丸となって復興支援を行うことを目的に「Mollyボランティアプロジェクト」を立ち上げました。教育・研究・社会貢献という大学業務のあらゆる分野において、全学連携による長期的な支援活動も展開していきます。「今こそ、同じ東北地域だからこそ支援活動を」これまで地域に支えられ地域と共に歩んできた思いを胸に復興支援を推進していきます。

いわてGINGA–NETに参加して

ギンガ　ネット

東日本大震災被災地の要支援ニーズと学生のボランティアニーズを結びつけるプロジェクト。岩手県立大学学生ボランティアセンターが企画・運営する活動ネットワークです。夏休みの間、全国の様々な大学がボランティアに参加。本学生は9月7日～13日まで参加しました。
「お茶っこサロン」を開設し、仮設住宅に住む被災者に、お茶などの飲物提供をしながら声がけを行い、心のケアを行いました。

看護学科3年　山田 優希(やまだ ゆき)さん(写真左)　池田 結花(いけだ ゆか)さん(写真中)　高梨 玲美(たかなし なるみ)さん(写真右)

私が行ったのは、釜石市尾崎白浜。被災地に交流の場がないことを痛感しました。元気づけるため、かき氷やわなげ、射的などの縁日を開催すると50人ほどの人が参加。子どもたちは普段遊び場がないので、よろこんでくれました。他の学生とグループを組んで行ったボランティア。みんなでその日の活動を話し合う時間が楽しく、友人ができたのも財産です。

私が行ったのは大槌町。現地を五感で感じることで、テレビでは伝わらない被災地の姿を目の当たりにしました。活動を通し感じたことは、住民のみなさんの前向きさに出会えたこと。看護実習で得た体験を活かし、人見知りせず話せたのがよかったです。最終日に話をしたおばあちゃんは震災当時のことを、私に涙ながらに話してくれました。人間関係の大切さを経験したことで、さらに看護師の夢に向かって頑張ろうと思いました。

私は「お茶っこサロン」のお茶つくり、掃除、備品購入等を担当。チラシをつくって仮設住宅に案内もしました。みんなが心地よく話せる集会所づくりを喜んでもらえたことがうれしかったです。心に残ったのは、一緒に参加した地元の学生が言った「がれきと呼んで欲しくない。元は人が住んでいたものだから。」という言葉。地元を愛する深い思いに感動。今回の経験により学びを深めることができました。

野田村への支援取組

青森市から車で3時間半という近い距離にある岩手県九戸郡野田村。野田村はこの度の東日本大震災による巨大津波により、迅大な被害を受けました。看護師・管理栄養士・理学療法士・社会福祉士を育てている本学のメリットを活かし、茶話会サロンやイベント支援などのコミュニティづくり、遊び相手や学習補助などの子ども支援、健康相談や育児支援を行うとともに、地域住民みなさまのニーズに添った支援活動を月1回、2年間行って参ります。

地域連携・国際センター長　中村 由美子(なかむら ゆみこ)

みんなでスポーツ「アップリートフェスタ」に出展しました！

9月19日(月)新青森県総合運動公園「マエダアリーナ」で、青森県教育委員会主催「アップリートフェスタ」が開催されました。本学からも「健康」をテーマにしたブースを出展しました。

- ●看護学科…血圧測定、動脈血酸素飽和度測定、体脂肪測定など
- ●理学療法学科…骨密度測定など
- ●社会福祉学科…ストレス耐性度測定など
- ●栄養学科…栄養サポートなどのパネル展示

多くの皆様にご来場いただき、健康について広く知っていただくことができました。